

平和メッセージ

1945年8月6日、8時15分。

その一分前までは、確かにそこにあった笑顔は一瞬にしてこの世から消え去り、15万とも20万とも言われる膨大な数の、罪の無い方々の大切な命が失われました。

私たちは先日、広島を訪れました。8時15分は当たり前のように過ぎ、今過ごしている平和のありがたさを知ると同時に、当たり前前にそこにある平和に恐ろしさすら感じました。平和があるのが当たり前だと過ごすのではなく、平和である世の中を積極的に作っていかねばならないのかもしれないかもしれません。平和記念資料館で見た悲惨な写真の数々、焼きついた人影、持ち主を失った黒焦げのお弁当箱。また、被爆された方の壮絶な話の数々。特に、爆心地で「助けて、助けて」と言われても自分の家族の命を守るためにお経を唱えながら歩み続ける他なかったお母さんの姿のお話は強烈に心に突き刺さりました。そんな広島は「100年間は草木も生えない」と言われていたそうです。まさにこの場所でこの土地で多くの方が亡くなったのだ、と悲痛な思いで歩いていたときに、一本の大樹に出会いました。被爆アオギリでした。彼は痛々しい幹を今なお抱えながら、私たちを優しく迎えてくれました。草木も生えないと言われた状況から立ち上がり、芽吹き、今よりしくそびえ立つ姿はまるで私たちに「今を大切に頑張る生きよう」と静かに語りかけてくれているようでした。そんな素敵なおアオギリの子どもが今日、ここに移植されました。

あの被爆アオギリは悲惨な状況を見えています。そして記憶しています。その子どもが今日ここに移植されたという意味は、単に広島と高山をつなぐということだけではないと思っています。つながれた命、つながれた平和への思い。このアオギリの2世がつながれた命を受け継いできたように私たちもこの地で大切な命を祖先から受け継いできました。また、平和への願い、平和な高山を受け継いできました。

私たちは平和な都市高山の若者としてこの先、この命、願いをつないでいかなければなりません。隣にいる仲間を大切に思い、優しく声をかける。地域の方々と毎日笑顔で挨拶をかわし、小さな子、お年寄りをいたわる。海外から来た方々に積極的に話しかけ、国境を越えた心の交流をする。そうした行動こそが、平和な世界を作ることの第一歩であり、一番の近道だと思っています。まさに先日オバマ大統領が話されていた「全ての生命は大切であり、我々は皆一つの人類という家族の一員である」という言葉の実現だと思います。

このアオギリが高山に根を張り、生きていく今日という大切な日に、私たちの平和への思いもしっかりと根強く張り巡らせ、発信していくことを誓い、高山市中学生の平和メッセージとします。

平成28年6月23日

高山市中学生代表 高山市立丹生川中学校 三年 下垣内 優月